

## 杉原泰雄教授著作目録

### I 著書等

#### 単著書

- 国民主権の研究——フランス革命における国民主権の成立と構造（一九七一年一〇月） 岩波書店  
国民代表の政治責任（一九七七年六月） 岩波新書  
人民主権の史的展開——民衆の権力原理の成立と展開——（一九七八年七月） 岩波書店  
基本的人権と刑事手続（法学選書）（一九八〇年五月） 学陽書房  
'80年代憲法政治への序章上・下（一九八〇年一〇月） 勁草書房  
憲法読本（一九八一年九月） 岩波ジュニア新書  
国民主権と国民代表制（一九八三年一月） 有斐閣  
国民主権の史的展開——人民主権との対抗のなかで——（一九八五年六月） 岩波書店  
平和憲法（一九八七年四月） 岩波新書  
憲法Ⅰ憲法総論（一九八七年一月） 有斐閣法学叢書  
憲法Ⅱ統治の機構（一九八九年一月） 有斐閣法学叢書  
憲法（シリーズ法学への第一歩Ⅱ）（一九九〇年四月） 岩波書店  
憲法第九条の時代——日本の「国際貢献」を考えるために——（一九九二年四月） 岩波ブックレット  
人権の歴史（岩波市民大学・人間の歴史を考える）（一九九二年六月） 岩波書店  
民衆の国家構想——失われた理念の再生を求めて——（一九九二年一〇月） 日本評論社  
新版憲法読本（一九九三年九月） 岩波ジュニア新書

憲法から地方自治を考える(シリーズ21世紀を地方自治の時代に!) (一九九三年一〇月) 自治体研究社

共著書

NHK大学講座・法学Ⅰ・憲法と人権(一九七三年四月) 佐藤功氏他と

NHK大学講座・法学Ⅱ・憲法と人権(一九七三年七月) 佐藤功氏他と

標準現代社会(一九八一年七月) 山極晃・正村公宏・宮川透諸氏と 自由書房

憲法Ⅲ人権(2)(芦部信喜編)(一九八一年九月) 芦部信喜・奥平康弘・中村睦男諸氏と共同執筆 有斐閣

憲法演習教室(一九八七年八月) 奥平康弘氏と 有斐閣

単編書

国民主権と天皇制(文献選集・日本国憲法2)(一九七七年五月) 編著 三省堂

市民のための憲法読本(一九八二年五月) 編著 筑摩書房

憲法の基礎概念Ⅰ(講座・憲法学の基礎1)(一九八三年六月) 勁草書房

憲法の基礎概念Ⅱ(講座・憲法学の基礎2)(一九八三年六月) 勁草書房

憲法の方法(講座・憲法学の基礎3)(一九八四年四月) 勁草書房

市民憲法史(講座・憲法学の基礎5)(一九八八年六月) 勁草書房

憲法思想(講座・憲法学の基礎4)(一九八九年一月) 勁草書房

判例マニユアル憲法Ⅰ・Ⅱ(一九八九年六月) 三省堂

共編書

演習憲法(一九七三年七月) 芦部信喜・池田政章両氏と 有斐閣

憲法を学ぶ(一九七四年三月) 奥平康弘氏と 有斐閣

憲法学4(一九七六年一〇月) 奥平康弘氏と(有斐閣双書)

憲法学1(一九七六年一〇月) 奥平康弘氏と(有斐閣双書)

憲法学2(一九七六年一二月) 奥平康弘氏と(有斐閣双書)

- 憲法学 6 (一九七七年二月) 奥平康弘氏と (有斐閣双書)  
憲法学 3 (一九七七年四月) 奥平康弘氏と (有斐閣双書)  
憲法学 5 (一九七七年九月) 奥平康弘氏と (有斐閣双書)  
新版憲法演習Ⅰ (一九八〇年三月) 清宮四郎・佐藤功・阿部照哉諸氏と 有斐閣  
新版憲法演習Ⅱ (一九八〇年八月) 清宮四郎・佐藤功・阿部照哉諸氏と 有斐閣  
新版憲法演習Ⅲ (一九八〇年一月) 清宮四郎・佐藤功・阿部照哉諸氏と 有斐閣  
新版法律学演習講座・憲法 (一九八四年一月) 芦部信喜・他田政章両氏と 青林書院  
判例・参照条文集憲法 (一九八四年一月) 阿部照哉・熊田道彦両氏と 有斐閣  
新版憲法を学ぶ (一九八五年四月) 奥平康弘氏と 有斐閣

共訳書

イギリス憲法史 / S・B・クライムズ (一九六五年五月) 川北洋太郎・小松茂夫両氏と 日本評論社

Ⅱ 論文

- 一九五八年  
三月 「フランス憲法における法の概念」 (修士論文)  
一九六一年  
三月 「議院内閣制の研究」 (博士論文)  
一〇月 「現代議院内閣制」 公法研究二三号  
一九六三年  
三月 「フランソワ・ジエニイ (François Geny) の抵抗権論」 一橋論叢一九六三年三月号

四月 The control of the constitutionality of laws under the constitution of Japan Hitokubashi Journal of Law and

Politics, vol. II.

九月 「フランス憲法における代表委任論——国民主権の一側面——」 一橋論叢九月号

一九六四年

三月 「権力分立の諸形態と議院内閣制」 一橋大学・法学研究5

一九六五年

二月・三月 「国民主権の基本構造上・下——主として、ルソー的人民主権との対比において——」 一橋論叢一九六五年二月

号・三月号

六月 「議院内閣制の本質」 ジュリスト特集号・続学説展望

一九六六年

三月 「国民主権の憲法史的展開」 一橋大学・法学研究6

一九六七年

一〇月 「フランスにおける集団行動の自由」 法律時報臨時増刊

一九六八年

三月 「参議院の制度と権能」 ジュリスト一九六八年三月一五日号

一九六九年

一〇月 「戦後憲法論争史・政治機構関係」 公法研究三二号

一九七一年

一月 「いわゆる「半代表制」(le gouvernement semi-représentatif)の構造について」 一橋論叢一九七一年一月号

- 二月・三月 「憲法学よりみた『市民革命の構造』上・下」 社会科学の方法一九七一年二月号・三月号  
五月 「日本国憲法における裁判官再任制度」ジュリスト一九七一年五月一五号  
一〇月 「フランス革命と国民主権」 公法研究三三三号  
六月・一〇月 「大学研究室の捜索と大学の自治Ⅰ・Ⅴ」 法律時報一九七一年六月号・一〇月号  
一九七二年  
三月 「大学の自治と国家権力」 ジュリスト五〇〇号一九七二年五月一日号  
〃 「下級裁判所裁判官の再任制度」他田政章・守屋克彦編『裁判官の身分保障』勦草書房  
六月 「国民主権」と『人民主権』世界一九七二年六月号  
〃 「公教育と現代議会制」法律時報臨時増刊  
一九七三年  
一月 「試煉に立つ議会制民主主義」世界一九七三年一月号  
二月 「人身の自由と刑事手続」法律時報一九七三年二月号  
一一月 「憲法学と刑事訴訟法学——若干の補論——」法律時報一九七三年一一月号  
一九七四年  
一月 「憲法からみた選挙制度——国民主権・国民代表・選挙——」東京弁護士会報一九七四年一月号  
九月 「市民憲法原理と現代——フランス大統領選挙をめぐる——」法律時報一九七四年九月号  
一九七五年  
六月 「三菱樹脂事件」法学セミナー一九七五年六月号  
七月 「国民主権と国民代表制」法学教室(第二期)一九七五年七月号  
一九七六年

一月 「法の支配の思想」 小林直樹・水本浩編『現代日本の法思想』有斐閣

二月・四月 「地方自治の本質Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 法律時報一九七六年二月号・三月号・四月号

五月 「政治責任の論理と刑事責任の論理」 世界一九七六年五月号

七月 「主権と自由」 声部信喜編『近代憲法原理の展開Ⅰ』東京大学出版会

一九七七年

一月・四月 「現代議会議と国民代表の原理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」 法律時報一九七七年一月号・同四月号

九月 「議会議と国民代表の原理」 公法研究三九号

一九七八年

八月 「基本的人権と刑罰権」 法学セミナー一九七八年八月号

一九七九年

一月 「地方自治の本旨」 法学セミナー増刊・総合特集シリーズ8

二月 「弁護士抜き裁判」 特例法案——その批判的検討(第二章) 法学セミナー一九七九年二月号

一九八〇年

二月 「日本における議会議制民主主義の理念と現実」 法学セミナー一九八〇年二月号

三月 「参政権論についての覚書」 法律時報一九八〇年三月号

九月 「フランス革命と『人民主権』」(日本西洋史学会第三〇回大会報告) 歴史評論一九八〇年九月号

一九八一年

一〇月 「憲法と教科書」 法学セミナー増刊・総合特集シリーズ17

一九八二年

一月・十一月 「国民主権の史的展開1-11」 法律時報一九八二年一月号・同十一月号  
五月・九月 「最近の国民主権論争とその課題1-V完」 法学教室一九八二年五月号・九月号

一九八三年

一月・七月 「国民主権の史的展開12-18完」 法律時報一九八三年一月号・七月号  
七月 「権力分立の近代と現代」 声部信喜編『基本法学6』岩波書店

一九八四年

一月 「政治責任と刑事責任・再論」 世界一九八四年一月号  
五月 「カレ・ド・マルベールの国民主権論と国民代表制論」 田上穰治先生喜寿記念「公法の基本問題」有斐閣  
一〇月 「憲法学の基礎概念」再考——統治権の主体としての「国家」 法学教室一九八四年一〇月号（第五回有斐閣法学講演会）

一九八五年

五月 「象徴天皇制とその運用について思う」 法セミ増刊・総合特集シリーズ29  
五月・八月 「国民主権と憲法制定権力1-4」 法律時報一九八五年五月号・八月号

一九八六年

一月 「日本国憲法と刑罰の謙抑主義」 佐藤功先生古稀記念「日本国憲法の理論」 有斐閣  
三月 「憲法解釈と憲法の基礎概念」 名古屋大学法政論集・長谷川正安教授退官記念論文集

一九八七年

二月 「最高裁判例の法源性をめぐる」 法律時報一九八七年二月号  
五月 「日本国憲法の一〇〇年と「総決算政治」」 法律時報一九八七年五月号  
七月 「国民代表概念における近代と現代」 公法研究一五輯（韓国公法学会）

一九八八年

三月 「フランス革命における近代と現代」学燈一九八八年三月号

一月 「現代行政国家論・再考」和田英夫教授古稀記念論文集『戦後憲法学の展開』日本評論社  
「予算法律説について」法律時報一九八八年一月号

一九八九年

五月 「天皇制論議と議会制民主主義の衰退」法律時報一九八九年五月号

七月・八月 「フランス革命と人権——その光と陰——前編・後編」法学セミナー一九八九年七月号・八月号

一九九〇年

四月 「教科書裁判と『国家の教育権』」芦部信喜編『教科書裁判と憲法学』学陽書房

五月 「議会制民主主義の創造」法律時報一九九〇年五月号

〃 「議會制と主権原理」ジュリスト一九九〇年五月一・一五号

一〇月・一二月 「民衆の国家構想1・3」法律時報一九九〇年一〇月号・一一月号・一二月号

一一月 「憲法第九条の時代」深瀬忠一教授退官記念『平和と国際協調の憲法学』勁草書房

一九九一年

一月・九月 「民衆の国家構想4・9」法律時報一九九一年一月号・六月号

九月 「革命政府論」考」小林直樹先生古稀祝賀『憲法学の展望』有斐閣

一九九二年

二月 「政治改革三法案」の破綻と政治改革の理念」法律時報一九九二年二月号

五月 「政治改革の理念と現実」憲法問題3



一九九三年

六月 「L・デューギーの国民主権論と国民代表制論」一橋論叢一九九三年六月号

〃 「国政調査権・再考——構造的汚職の真相究明問題を契機として」法律時報一九九三年九月号

九月 「民主主義と人権の保障——あるいは主権原理と自由の関係について」芦部信喜先生古稀祝賀「現代立憲主義の展開上」有斐閣

翻訳・資料・解説・書評等

一九五八年

四月 「フランス第四共和国憲法（翻訳）」大沢章編『世界の憲法』国元書房

一九五九年

三月 「フランス第五共和国憲法（翻訳）」大沢章氏と共訳 法律時報一九五九年三月号

一九六一年

九月 「議院内閣制の研究（要旨）」一橋論叢一九六一年九月号

〃 「酪農基金振興法（解説）」経済法・創刊号

一九六四年

四月 「フランス第三共和国の諸憲法（解説と翻訳）」比較法（東洋大比較法研究所）第二号

四月・十一月 「研修講座・憲法」法務総合研究所・研修一九六四年四月号から十一月号

一九六六年

一〇月 「学界展望」 公法研究二八号

〃 「衆議院の解散」 ジュリスト別冊・憲法の判例

一九六七年

五月 「首相公選制」 清宮四郎・佐藤功編 『統憲法演習』 有斐閣

一〇月 「学界展望」 公法研究二九号

一二月 「学界回顧」 法律時報一九六七年一二月号

一九六八年

九月 「体系憲法事典」(共同執筆) 田上穰治編 青林書院

一二月 「書評・憲法講義(E)・(F)」(小林直樹著) 法学セミナー一九六八年一二月号

一九六九年

五月 「法学の基礎知識」(共同執筆) 有斐閣

〃 「論争・戦後憲法学」について、「総括」と「憲法と条約」 法律時報一九六九年五月号

一九七一年

五月 「法学の基礎用語」(共同執筆) 谷口知平編 有斐閣

六月 「国立歩道橋事件」ジュリスト臨増昭和四五年度重要判例解説

一九七二年

二月 「書評・憲法と議会政」(芦部信喜著) 法律時報一九七二年二月号

四月 「大学の搜索と大学の自治」『続・日本の憲法判例』憲法理論研究会 敬文堂

一九七三年

(199) 杉原泰雄教授著作目録

三月 「大学の自治と警察権の限界——愛知大学事件——」別冊ジュリスト教育判例百選

一九七五年

八月 「全通中郵事件」(判例評釈) 行政実務一九七五年八月号

九月 「都教組事件」(判例評釈) 行政実務一九七五年九月号

一〇月 「全農林警職法事件」(判例評釈) 行政実務一九七五年一〇月号

十一月 「三菱樹脂事件」(判例評釈) 行政実務一九七五年十一月号

十二月 「議員定数配分の不均衡と平等原則」(判例評釈) 行政実務一九七五年十二月

一九七六年

一月 「学問の自由と大学の自治」(判例評釈) 行政実務一九七六年一月号

二月 「第三者所有物没収事件」(判例評釈) 行政実務一九七六年二月号

三月 「高田事件と迅速な裁判を受ける権利」(判例評釈) 行政実務一九七六年三月号

四月 「地方自治の本旨と民衆訴訟」(判例評釈) 行政実務一九七六年四月号

五月 「条例と罰則」(判例評釈) 行政実務一九七六年五月号

六月・七月 「公務員の政治活動の自由」(一)「(判例評釈) 行政実務一九七六年六月号・七月号

一九七七年

二月 「書評・現代基本権の展開」(小林直樹著) 読書人一九七七年二月二二日

六月 「議会政治の原理」 法セミ増刊・現代議会政治

十一月 「書評・憲法における象徴と代表」(鶴飼信成著) 読書人一九七七年十一月二二日

一九七八年

五月 「内閣の責任と国務大臣の責任」「閣議の方法」小嶋和司編 憲法の争点

一〇月 「書評・歴史のなかの憲法上・下」(家永三郎著) 歴史学研究一九七八年一〇月号

- 一〇月 「国政調査と犯罪調査」(辻村みよ子と共同執筆)ジュリスト臨増「現代の汚職」
- 一九八〇年
- 三月 「書評・国家緊急権」(小林直樹著)朝日新聞一九八〇年三月九日朝刊
- 四月 「緊急逮捕」ジュリスト 憲法判例百選1
- 四月 「社会科学小辞典」(共同執筆)古賀英三郎・山中隆次編 春秋社
- 五月 「憲法を学ぶ視点——憲法の解釈について」 法学セミナー一九八〇年五月号
- 一九八一年
- 二月 「浮上する改憲論議」法学セミナー一九八一年二月号
- 一九八四年
- 五月 「解説・フランス革命と憲法」(長谷川正安著)三省堂
- 十一月 「大百科事典1-16」(共同執筆・項目選定委員・編集委員)平凡社
- 一九八五年
- 二月 「憲法学習について」法セミ増刊総合特集シリーズ28
- 一二月 「衆議院の解散」樋口陽一編・憲法の基本判例 別冊法学教室
- 一九八六年
- 五月 「ブレーン政治(私的諮問機関)」法学セミナー一九八六年五月号
- 一九八八年
- 三月 「判例回顧と展望(一九八七年)」法律時報臨増

一九九〇年

一月 「政治改革の原点と原理」法と民主主義一九九〇年一月号

一九九一年 「憲法第九条」の時代がきている」軍縮一九九一年一月号

一九九二年

一月 「憲法と地方自治」労働運動一九九二年一月号

七月 「学問の自由と学生の自治——ポポロ事件」兼子仁編・教育判例百選〔第三版〕

#### IV その他

一九六六年

五月・六月 「座談会・憲法学の未来像(上)・(下)」阿部照哉・奥平康弘・樋口陽一諸氏と 書齋の窓一九六六年五月号・六月号

一九六八年

一〇月 「シンポジウム・憲法学の方法」阿部照哉・奥平康弘・影山日出弥・樋口陽一諸氏と 法律時報一九六八年一〇月号

一九七一年

三月 「憲法と裁判官再任制度」朝日新聞一九七一年三月二十九日夕刊

一九七二年

三月 「シンポジウム・宮本裁判官の再任拒否をめぐる」(司会)守屋・鴨・花田・池田・吉田・大須賀・樋口諸氏と『裁判官の身分保障』他田政章・守屋克彦編 勁草書房

五月 「憲法と国民主権(上)・(下)」読売新聞一九七二年五月一日・二日夕刊

七月 「シンポジウム・公法の解釈——法の解釈をめぐる——まとめ」ジュリスト増刊・基礎法学シリーズⅣ  
十一月・十二月 「シンポジウム・最高裁判決のゆくえⅠ・Ⅱ」法学セミナー一九七二年十一月号・十二月号

一九七三年

一月 「転換の指標——頻発する憲法問題」朝日新聞一九七三年一月一〇日夕刊

六月 「天皇と政治」論議に思う」朝日新聞一九七三年六月八日朝刊

〃 「市民国家と主権原理」読売新聞一九七三年六月一三日夕刊

十二月 「シンポジウム・長沼判決の憲法学的検討」法学セミナー臨増

一九七四年

六月 「問われる市民憲法原理(山・円)——フランス大統領選の提起したもの——」読売新聞一九七四年六月一四日・一五日夕刊

八月 「フランスのパン」ジュリスト一九七四年八月一五日号

一九七五年

五月 「公職選挙法改正と小選挙区制」東大新聞一九七五年五月一九日号

六月 「供託金増額と被選挙権の制限」朝日新聞一九七五年六月六日夕刊

〃 「公職選挙法改正案の問題点」時事教養一九七五年六月号

七月 「第七五回通常国会に思う」東大新聞一九七五年七月一四日号

十二月 「象徴天皇制について思う」世界一九七五年十二月号

一九七六年

一月 「国際人権規約と憲法の立場」朝日新聞一九七六年一月二二日夕刊

八月 「座談会・長沼事件控訴審判決について」林修三・奥平康弘両氏と 読売新聞一九七六年八月六日朝刊

八月 「長沼事件控訴審判決に思う」朝日新聞一九七六年八月七日朝刊

一〇月 「座談会・長沼訴訟控訴審判決をめぐる」新井章・佐藤文彦・和田英夫諸氏と 法律時報一九七六年一〇月号

一二月 「ロッキード総選挙について思う」 共同通信一九七六年二月三日

一九七八年

一月 「座談会・これからの憲法学」(司会)ジュリスト一九七八年一月一日号

七月 「最近の憲法政治に思う」 世界一九七八年七月号

八月 「国立の春」ジュリスト一九七八年八月一五日号

八月一二月 「憲法からみた「弁護士抜き裁判」特例法案」 人権新聞二〇八号(一九七八年八月号)、自由と正義臨時増刊

(一九七八年二月)

一〇月 「ふたたび憲法政治に思う」 世界一九七八年一〇月号

一二月 「主権論史におけるルソー」 書齋の窓二七九号

一九七九年

一月 「変身する憲法政治」 創文一八一号

五月 「対談・疑惑の本質になぜ迫れぬ」野村二郎氏と 朝日新聞一九七九年五月二九日朝刊

九月 「政治倫理を問う一票を」 毎日新聞一九七九年九月三〇日朝刊

一二月 「フランス憲法とのつきあい」 創文一九一号

一九八〇年

一月 「日本の議会制民主主義を考える」福音と世界一九八〇年一月号

四月 「社会科学の季節」 小平学報

五月 「ひん死の立憲主義」 朝日新聞一九八〇年五月二日朝刊

五月 「スパイ防止法」正当化できぬ」読売新聞一九八〇年五月五日朝刊

六月 「議会制民主主義を考える」草の美一九八〇年六月号

七月 「憲法学と歴史学」ジュリスト一九八〇年七月一日号

一二月 「浮上する改憲論上・下」 キリスト新聞一九八〇年一月二三日・同二九日

一九八一年

五月 「どこへ行く、憲法政治」 時事教養一九八一年五月

五月 「対談・改めて憲法を問う」 野村二郎氏と 朝日新聞一九八一年五月二日朝刊

一〇月 「気になること」 ジュリスト一九八一年一〇月一五日号

一九八二年

三月 「真理教育に政治が介入」 時事教養一九八二年三月

四月 「防衛・突出」と憲法第九条」 時事教養一九八二年四月

五月 「問い直せ平和の意味」 読売新聞一九八二年五月三日朝刊

〃 「再読・日本国憲法(下)」 共同通信一九八二年五月三日

六月 「現「証言法」下でも喚問を」 読売新聞一九八二年六月二六日朝刊

一九八三年

四月 「憲法軽視は破滅への道」 読売新聞一九八三年四月二八日朝刊

〃 「憲法問題を考える」 市報むさしの一九八三年四月二九日

六月 「広がる一方の一票の格差」 時事教養一九八三年六月

一二月 「討論・憲法の理念と政治の現実」 奥平康弘・江橋崇両氏と 世界一九八三年一二月号

一九八四年

四月 「田中判決」と政治責任」 時事教養一九八四年四月

一九八五年

四月 「言葉のすりかえ——立憲主義の否定」 時事教養一九八五年四月

一二月 「座談会・靖国神社公式参拝の意味」 宮地正人・宮本栄三・幸日出男諸氏と ジュリスト臨増



一九八六年

- 二月 「討論・「戦後政治の総決算」を総決算する」世界一九八六年二月
- 三月 「二足の草鞋をはいて」一橋大学社会科学古典資料センター年報6号
- 四月 「戦後総決算路線は何をもたらすか」時事教養一九八六年四月
- 五月 「戦後政治の総決算」と憲法制定四〇周年」(法律時評) 法律時報一九八六年五月号

一九八七年

- 一月 「インタビュー・人民主権と地方自治」月刊自治研一九八七年一月号
- 二月 「東京弁護士会入権賞によせて」世界一九八七年二月号
- 三月 「座談会・判例回顧と展望一九八六年(司会)」法律時報臨増
- 四月 「憲法施行四〇周年——最大の転換点に立つ」時事教養一九八七年四月
- 五月 「平和憲法と私たちの生活(五月三日記念)」広報ひの
- 六月 「インタビュー・まかり通ってきた「解釈改憲」」毎日新聞一九八七年五月三日朝刊
- 六月 「インタビュー・憲法を我がものとする視点」住民と自治一九八七年六月号
- 七月 「インタビュー・研究室訪問」一橋新聞一九八七年六月一〇日
- 七月 「ロッキード事件東京高裁判決に関連して(意見)」毎日新聞一九八七年七月二九日夕刊
- 八月 「インタビュー・九条は人類を救う道」朝日新聞一九八七年八月二六日朝刊
- 九月 「インタビュー・黙ってはいられない」赤旗一九八七年九月一三日
- 一〇月 「インタビュー・生活を守る平和憲法」東大新聞一九八七年一〇月二〇日

一九八八年

- 四月 「憲法問題をみる目」時事教養一九八八年四月
- 五月 「学問交流の継続・発展を」読売新聞一九八八年五月二〇日夕刊
- 七月 「日本国憲法と象徴天皇制」書齋の窓一九八八年七・八月号

八月 「法学におけるアジア諸国との交流(法律時評)」 法律時報一九八八年八月号

一九八九年

一月 「昭和を終えて——象徴天皇制と構造的汚職を考える——」 一橋新聞一九八九年一月二八日

四月 「社会権の成立」新しい社会三三一号

〃 「厳しく問われる政治家の政治責任」時事教養一九八九年四月

六月 「政権交替のルーレ化…その構造的汚職を抜け出す道」エコノミスト一九八九年六月六日号

七月 「対談・フランス革命の構造と憲法思想」遅塚忠躬氏と 法律時報一九八九年七月号

一九九〇年

二月 「改めたい最高裁人事のあり方」朝日新聞一九九〇年二月八日朝刊

四月 「病める議会制民主主義」時事教養一九九〇年四月

九月 「アジア諸国法の研究教育を」法学セミナー一九九〇年九月号

一〇月 「限定ない政党助成は違憲の疑い」朝日新聞一九九〇年一〇月三日朝刊

一九九一年

三月 「平和国家の国是忘れ役割喪失」朝日新聞一九九一年三月八日夕刊

四月 「湾岸戦争と平和憲法」時事教養一九九一年四月

五月 「憲法の現在を問う」図書新聞一九九一年五月四日

一九九二年

四月 「構造的汚職と国政調査権」時事教養一九九二年四月

七月 「新しい憲法政治の手法」朝日新聞一九九二年七月一四日朝刊

〃 「参議院選と憲法政治」共同通信一九九二年七月

一二月 「国政調査権で真相の究明を」朝日新聞一九九二年一二月一四日夕刊

- 一二月・一月 「政治改革」について発言上・下」新生一九九二年二月二五日・一九九三年一月二日  
一九九三年  
三月 「軍拡の政治と構造的汚職の克服」文化評論一九九三年三月号（休刊前最終号）  
四月 「汚職事件の解明へ国会の機能充実を」朝日新聞一九九三年四月二六日夕刊  
〃 「新・憲法改正論にみる虚実」時事教養一九九三年四月  
五月 「憲法第九条論考」毎日新聞一九九三年五月三一日夕刊  
一二月 「政治改革（選挙制度）——民主主義の歴史に逆行」北海道新聞一九九三年十一月二四日夕刊  
一二月 Article 9 makes perfect sense I, II. The Japan Times 1993. 12. 21-22.  
一九九四年  
一月 「第九条が必要な世界とアジア」軍縮一九九四年一月号  
〃 「改めて憲法第九条を考える」福音と世界一九九四年一月号  
二月 「対談・民主的的地方分権は世界の流れ」本尾良氏と 住民と自治一九九四年二月号